

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201637		
法人名	特定非営利活動法人 つくも福祉グループ		
事業所名	グループホーム大和		
所在地	長崎県佐世保市大和町1114番地2		
自己評価作成日	令和5年9月7日	評価結果市町村受理日	令和5年10月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和5年10月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様と職員の信頼関係が深まるように、普段からたわいもないお喋りをし、その方の思いを汲み取る事が出来るようにしている。「その人の生き方に寄り添います」という理念を掲げ、今までの生活歴や性格などを十分に理解した上で、お一人お一人に合ったサービス提供が出来るように努めています。ご家族様や地域の方々との関係も大切にしながら、地域に根差した介護を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階建ての当ホームは、居室が畳敷きで、光沢のある板張りのリビング、廊下には趣のある調度品などを置き、2階と1階をつなぐ階段には入居者の安全面を考慮し、幅の広い折り返しができる造りとなっている。ホーム内は家庭的で明るく笑顔に包まれ、職員同士が互いの意見を尊重し、不十分なことはカバーし合いながら介護の実践に努めている。地域包括支援センターと協力し、健康体操の開催、地域住民との災害対策時の緊急連絡網での協力体制、季節毎の食材の差入れ等、地域交流が盛んに行われ、同町内から認知症に関する講話を依頼され理事長が講師として参加する等、地域に根差して取り組んでいる。入居者家族のアンケートで、家族が見た職員の印象として「生きいきとした働きぶりである」として高く評価されており、今後も入居者、家族との信頼感と安心感のあるホームとして期待が持てる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念と事業所の理念を実践している。事業所の理念は職員と一緒に作り上げたものであり、皆で共有しやすいものとなっている。	ホームの理念を『その方の生き方に寄り添います』と掲げ、入居者個々の担当職員を中心に、本人、家族の意見を伺い、職員会議を通じて検討している。職員は入居者の希望に沿った細やかな支援を行いながら理念の共有・実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館行事にはなるべく参加したいと考えているが、R2年頃より新型コロナウイルス感染予防の為、出席出来ずにいた。R5月すぎ頃より少しずつではあるが、外出支援も出来ており状況も見ながらではあるが、一日も早く安心して地域の活動に参加出来るようになれば…と考えている。	担当職員を中心に、地域包括支援センター、公民館と連携し、健康体操への参加や、地域内の各介護サービス事業所と連携し、地域貢献活動を行っている。公民館より依頼を受け理事長が認知症に関する講師として招かれる等、地域交流ができています。コロナ禍による状況を踏まえながら介護実習生の受入れも継続する意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の公民館のサロンにて、健康体操を行ったり長寿会クラブからの依頼にて講話を行ったりしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場においても、毎月の活動報告等報告を行い、貴重な意見を頂き、今後のサービスの向上に繋げている。	コロナ感染症が第5類に移行したことに伴い、運営推進会議は、住民代表、民生委員、地域包括支援センター職員などが参加し対面会議にて行っている。会議録はホームの状況報告と、各メンバーとの質疑応答内容を口述形式で残している。メンバーより、ヒヤリハットの内容、対策方法を知りたいと要望が挙がるなど活発に意見交換が行われている。当議事録は玄関に掲示し、いつでも閲覧ができる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き色々な報告を行い、意見や提案を頂いている。又、居室の空き状況の報告を行い、入居に繋がる時もある。地域の後方支援にもなるべく協力出来るように連絡を取り合っている。	行政担当窓口とは、電話やメールでの相談を中心に、各種書類の記入方法等を尋ねアドバイスを受けるなど日頃より関係を築いている。生活福祉課から訪問があったり、地域包括支援センターより空室の問い合わせを受けるなど、関係機関と情報交換しながら協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束についての研修を受けたり、身体的拘束等適正化委員会を年4回、必要時にはその都度開催しており、理解出来る様に努めている。外に出て戻って来れない方がおられ、人員が少ない時には、玄関の鍵を施錠していたが、それでも鍵を開けて出て行かれる方がおられた。	身体拘束、虐待に関し、年間研修計画に則り職員研修を行い、職員意識の向上と身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる。入居者の安全確保を目的として一時的にセンサーマットを使用する場合があるが、事前に使用目的等を家族へ説明し、文書で同意を得ている。	現在、ホームで身体拘束を実施している入居者はいない。尚、身体拘束を実施せざるを得ない場合に備え、家族の同意書を準備されているが、その様式に期限を記載する欄がない。行動制限は一時的なものであることが求められていることから様式を改善すると共に、例えば介護計画書を活用し一時的であることを明示するなどして、取り組むことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の高齢者虐待防止検討会を開催し、必要時にはその都度開催をしている。職員の研修は年2回、新規採用時にも研修を行い虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修がある時には、積極的に受講しホーム内に持ち帰り、勉強会の時に話し合っているがまだ十分に後見人制度について理解出来ているとは言い難い所がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所日にご家族様へ契約やサービスの終了について説明を行っている。又、加算の改定や利用料金の改定についても、家族会にて意見や質問等を尋ね、説明を行い納得を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で担当者がついて、ご家族様の要望を伺ったり、ホームに来所された際や電話での会話の中で意見や要望を気軽に話せるように対応している。	家族会は毎年2回開催予定であるがコロナ禍の中、ここ数年、書面形式による開催となっている。今年度、対面形式で開催する案内を行ったが、参加者不足で持ち越しとなった。ホームの活動報告、写真、面会基準、各種問合せ案内等を季節感のある用紙を用いてレターパックにて家族へ郵送している。意見や要望があった際は、送り、業務日誌に残し職員間で共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の勉強会、毎日の申し送り時に職員が意見を言えるような雰囲気を作っている。勤務中においても、問題点や対応等が言えるようにし、改善出来るように努めている。	職員間の伝達事項は業務日誌に残し、勉強会での学びはノートに記録し、欠勤した職員には回覧し共有を図っている。コロナ禍の中、管理者が勤務体制に苦慮している状況を見かね、理事長は率先して補助的役割を申し出る職員の意見を吸い上げその案を採用し、職員間のストレス解消にも配慮しながら全職員が協力し互いを思いやる支援に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人1人の意見や提案を取り入れ、働きがいのある職場づくりに努めたいと考えている。又、研修や講習への参加が出来る様に積極的に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	無理強いはない程度ではあるが、職員1人1人にあった研修への参加を促している。又、勉強会で話し合いながらそれを学びの場としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後、2か月に一回の同業者との交流や、年4回の佐世保市グループホーム連絡協議会の研修に参加し、サービスの向上に向けて取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、本人様や家族様との話しの中で意向や要望を伺い、困っている事や不安を解決出来るように考え信頼関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の話を伺い、どういう所が困っていたり不安になったりしているのか、状況や課題を把握し解決出来るように一緒に考え信頼を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様と家族様の希望や意向を伺い、サービスの提案を行い、希望や意向に沿ったサービスが受けられるように話し合いを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの持っている力はそれぞれで、その方に合った役割をもって頂き、利用者と職員は共に生活をし関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の思いを家族様に伝え、なるだけ本人様の思いが実現出来るように家族様とコミュニケーションを図り、よい関係性が保っていけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でもあったが、現状を見ながら親類の家へ遊びに行かれたり、友人へ手紙を出したいとの事で投函をしたり、外出された時の写真を渡したりして支援を行っていた。	職員は本人や家族から馴染みの場所やこれまでの関係先の情報を聴き取り、業務日誌、個人記録に残している。家族の協力の下、親類宅への訪問、ホームの車を使用した花見のほか、ドライブで本人の思い出の場所を訪ね、昔話を興じる等、継続した支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションやゲーム、行事等で利用者様同志のコミュニケーションが図られている。オヤツ後の下膳など利用者様同志が声かけ合っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された家族様と偶然お会いした時には、互いの近況報告をしている。又、何か分からない事があればいつでも連絡して頂けるように話しをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の思いや意向など話の中で見つけ出し理解し、解決出来るようにしている。	意向を表明することが少ない控えめな入居者に対しては職員から積極的に話し掛け、本人の思いを汲み取っている。以前は本人の希望に沿って墓参りや、馴染みの美容室への訪問等を行っており、管理者は今後も希望に沿った支援を実現していく意向である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談の段階で、本人様や家族様からの生活歴等の情報を伺っている。その後、新しい情報があれば、記録に残したり担当者会議時に報告を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送り時や担当者会議の時、医療面から看護師の報告など一人ひとりの現状の把握に努めている。又、生活リズム表にて体調把握を毎日行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様の要望や意向を介護計画を立てる上で毎回伺っている。担当者会議で看護師や職員からも情報を集め、いかにケアを実践して行くか話し合い、介護計画の作成に努めている。	実施記録は月単位で長期、短期目標、サービス内容を1枚の紙面に纏めており、入居者支援に活かすことができる様式を整備している。担当職員が本人、家族の要望、アセスメント、評価を行い、職員会議兼担当者会議に理事長、管理者、看護師、社会福祉士、職員が参加し、介護計画を6か月ごとに見直し作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子やケアの実践等、個人の介護記録に残している。家族様への報告、病院受診の結果等、青のボールペンで記入し、すぐ分かるようにしている。又、いつもと違うと感じた時には記録に残すようにし、申し送り時にも報告するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の都合などで他科受診出来ない時や買い物の代行等おこなっており、色々なニーズに対応出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍でもあり、公民館行事等に参加する事は難しかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際、ご希望のかかりつけ医をお聞きしている。ホームの主治医は毎月一回往診があり、身体の状態把握をされている。また、家族様の意向など主治医に相談したり、ホームから主治医へ、いまの状態報告を行う時もある。必要に応じて健康診断の結果を家族様に報告し、その対応を話あったりしている。	家族の同行を前提に入居前からのかかりつけ医を継続して受診することも可能である。緊急時は救急搬送、家族による対応が基本であることを説明し、家族より了承を得ている。提携医からは毎月1度訪問診療があり、提携歯科医からも依頼に応じて往診が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤4名の看護師が介護職員と同様に勤務し、一人ひとりの状態把握を行ったり、又、介護職員からの気づきをもとに、健康状態を把握している。医療との連携がスムーズに行えるような体制を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者や家族様との話し合いを持ちながら、早期に退院が出来るように、又は今後の対応について話し合える体制を作っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まずは家族会にて健康管理表に、ホームとして出来る事を説明した上で、本人様や家族様の意向について書いて頂き、職員は意向に沿って対応していく。必要な時には家族様との個別の話し合いを持ち、再度、意向を伺い主治医へ報告、今後のケアのあり方を全職員で共有していく。	ホームに看護師が在籍し、看取り支援が行われている。看取り期は医師が家族へ状況を説明し、ホームでのターミナルケアを希望された場合は看取り支援内容の説明をホームが行い、家族より同意を得ている。入居契約時には健康管理表により、緊急時の具体的な医療行為等を、本人、身元引受人に説明し、署名にて同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習への研修には参加する様にしている。利用者様個別のリスクについて看護師が話しをし、その時の対応法について説明を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	毎月一回の避難訓練を行っている。ご近所の方の電話番号が火災通報装置へ登録されるなどで参加頂いており、協力体制が整っている。	避難訓練に入居者も参加し、総合訓練のほか消火器を使用した訓練も実施している。自然災害時に関する防災計画を作成し、台風を想定した災害訓練を行っている。現在、感染症を含めた業務継続計画(BCP)の策定に向け取り組んでいる。緊急時の職員役割分担に関し、リーダーが中心となり、ホワイトボードにその日の役割を記載し、確認を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーについて、外部・内部の研修に参加出来る様にしている。日頃より守秘義務についての話しを行っている。又、利用者様一人ひとりの生活歴があり、その方に合った言葉かけを行っている。	備忘録として使用した各種のメモ類は正規の書類に転記した後、シュレッダーにて廃棄処理している。接遇マナー研修を年間研修計画に入れ、定期的実施している。居室への入室、入浴場面や排泄場面等、配慮が必要な支援場面では、プライバシーを尊重した言葉かけ、対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様一人ひとりに合った言葉かけを行い、分かりやすく説明を行っている。いつでも思いや希望が言えるような雰囲気作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れは決めているが、一人ひとりの希望や思いを尊重し、その方に合った一日を過ごして頂けるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服はご自分で決められる方もいれば、職員と一緒に選ばれる方もおられる。髪は理容師の資格を持つ職員が本人様の要望を伺いながら、一緒に髪型を決めて楽しまれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リビングのホワイトボードに今日の献立を書いて、いつでも見られるようにしており、立ち止まって見て楽しみにされている。時々食べたい物を伺い献立に取り入れている。可能な方はコップの下膳をして下さっている。	季節感のある食材を用いて美味しく食べていただく事を念頭に職員手作りの食事を提供している。食材の購入時には入居者が同行する機会もあり、気分転換、楽しみの一つとなっている。七夕、ひな祭り、節句、彼岸、敬老会等の行事食を提供している。本人の嗜好、アレルギーを考慮した上で、職員は食事介助を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活リズム表にどのくらい食事摂取されたのかを記録している。一人ひとりに合った食事形態にして、介助が必要な方には食事介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼食後に歯磨きをする習慣がない方もおられる。その方には朝・夕についてしっかり磨ける様に側についている。一人ひとりに合った口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活リズム表にて排泄のパターンを把握し、一人ひとりに合った言葉かけやトイレ誘導を行い排泄ケアを実施している。	夜間帯の支援では定期的な巡回のほか、入居者の排泄パターンに応じて、トイレやポータブルトイレへの誘導、オムツ、リハビリパンツの交換を行っている。適正なサイズのリハビリパンツ、パッド類の使用について、職員間で検討し、家族とも相談しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医や看護師に相談し、一人ひとりに合った排便コントロールを内服薬にておこなっている。主に野菜を取り入れた献立を作り、毎日の運動で便秘にくい身体作りを心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回行っており、希望される曜日に入浴は出来ないかもしれないが、ゆっくりと入れるように心掛けている。	毎日入浴することが可能で、入居者毎に週2回の入浴支援を行っている。尚、本人の体調不良、入浴拒否等がある場合は、臨機応変に対応している。できる限り湯船に浸かる事を支援し、四季に応じて、柚子湯、菖蒲湯等の楽しみに配慮した支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの、その時の状況に応じて、本人様のタイミングにて入眠されている。職員は室内の温度をこまめに調整したり、布団の調整をしたりして良眠出来るように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋をファイルにまとめて入れており、職員は薬の目的や副作用等、いつでも確認出来るようにしている。薬の変更時には業務日誌に記載し、申し送りの際情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり出来る事をして頂き、ご自分の役割として作業されている。家事一般、脳トレ、ぬり絵、習字、生け花、テレビの視聴、ゲーム等各自がご自分の好きな事をして過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でもあった為、なかなか外出は難しかったが、コロナウイルス感染症の5類へ移行となり、人ごみを避けた外出をする事が出来た。とは言っても、まだまだ心配な所もある。	四季折々の花見やドライブのほか、個別支援により好天時にはホーム周辺を散策したり、洗濯干し場で日光浴、プランターの散水等、気分転換を図り外出する機会を設けている。管理者はコロナ感染症が第5類となり、徐々に外出する機会を増やしたい意向である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金の管理が出来る方は、小額のお金を持って、ホームの行事の「お店屋さん」で、ご自分の財布からお金を出し、欲しい物を購入されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話連絡がとれるようにしている。 又、手紙を家族様や友人に書かれた時には代わりに切手を購入したり投函したりして支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	活け花レクリエーションでは、季節の花を活けて頂いたり、壁には季節に合った習字や壁飾りなどを飾っている。庭には季節の花を育てたり、廊下ではソファーに座ってお喋りをしながら洗濯物をたたんだりされ、生活感が漂っている。	食卓及び壁面に季節が感じられる花卉、貼り絵を飾り、テーブルは除菌対策でアルコール消毒を行い、床面、手摺等も定期的に清掃し、食後の窓の開閉による換気も行われ、居心地の良い共用空間となっている。階段は安全面に配慮し幅広く緩やかな折り返しの階段を整備している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや1階・2階にはソファーが置いてあり、ご自分が好きな所に座り、ゆっくりと休憩を取られたりお喋りを楽しんだりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、それまで愛用されていた物を持って来て頂き、見慣れた物を使ったり設置することで、居心地よく過ごせるようにしている。	全室が畳を使用した温かみのある居室であり、清掃、換気、室温湿度の管理も行き届いており、居室には本人の馴染みの品等を自由に持込むことができる。持込み不可の物品は重要事項に明記して入居時に説明している。居室の調度品を移動する必要がある際は事前に家族に説明し同意を得ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動しやすいように廊下・階段・トイレ等には手すりを設置している。分かり易いように場所の案内を表示している。		